

はじめに

2021年度のQOL研究機構 社会福祉学研究所 研究・活動報告書をお届けいたします。本研究所では毎年研究・活動助成を行い、その成果を研究・活動報告書としてまとめております。本年度も昨年度に引き続き、新型コロナウイルス感染症の拡大により、研究・活動に大きな制約がかかりました。そのような状況の中で、創意工夫をして実施された2編の研究・活動報告を掲載しております。

『「のべおか子どもセンター」20年目の活動報告』では、20年目を迎えた延岡市教育委員会（社会教育課）との連携事業である「のべおか子どもセンター」の本年度の取り組みと活動が報告されています。昨年度中止となった親子体験活動は、感染拡大防止対策を講じて、全6回の計画の内、4回実施することができました。久しぶりの活動とあってか、参加者から喜びの声を多くいただきました。子育て講話については、昨年度の経験を踏まえ、家庭で視聴できるように6回のweb配信を行いました。

『若手保育士の仕事の困難さへの克服過程について～第2報 4事例インタビューによる保育の困難さと工夫の考察』は、保育士の早期離職が保育士不足の一因となっていることに着目し、若手保育士が入職前の保育に対するイメージと入職後の現実とのギャップのなかでどのような困難に直面し、困難に対してどのような協力や努力を経て困難を克服し成長を遂げていくのかを明らかにすることで、保育士の離職対策に係る知見を得ようと試みた研究です。第2報では、若手保育士に共通する困難さとそれに対する工夫の考察を行います。

本研究所の研究・活動および本報告書の内容が、より良い地域社会を構築するための一助となりますことを願っております。

令和4年3月

九州保健福祉大学  
QOL研究機構 社会福祉学研究所  
所 長 正 野 知 基